

清春白樺美術館

清春は、まさに私の「お気に入りの美術館」なのです。15年以上も通っています。場所は、八ヶ岳の麓、標高1000mにあります。夏に訪れると下界とは全く別の世界です。清春芸術村の敷地内には、アトリエ「ラ・リュージュ」、清春白樺美術館、ルオー礼拝堂、梅原龍三郎のアトリエがあります。春は桜花爛漫、秋は紅葉に彩られ自然に恵まれたアートコロニーです。

この美術館は、白樺派の武者小路実篤を中心に、高村光太郎・智恵子夫人、有馬生馬、長興善朗、児島喜久雄などの多彩な文人の作品と、中川一政、ジョルジュ・ルオー、セザンヌの名品が常設されています。美術館の外にある礼拝堂の中には、パイプオルガンとともに、ルオーの「ミセレーレ」や「ステンドグラス」が飾られています。美術館の中で見るルオーとはひと味違って、祈りとともにルオーを見ることとなります。「神の絵」「神秘の絵」と評されるルオーの絵を見るにもっともふさわしい場所とて思えてきます。また、礼拝堂の奥に梅原龍三郎のアトリエを眺めることが出来ます。美術館の入り口には龍三郎が作らせたという、スケッチ用のクラシックカーがおいてあります。今も使えるそうです。

私がこの美術館を好きになったのは、「肌に接するような身近な展示」の仕方です。ルノワールやルオーの名作が手で触ろうとすれば触れるほどの距離、実際に顔をふれんばかり近くで見ることが出来ます。しかも、多くの作品は額にガラスに入っていないため、タッチがありありと見て取れます。ほとんど自然光の中で展示していますから、色合いもそのまま具合良く見えます。実物を見て絵を勉強する私たちアート好きには、まったくありがたい美術館です。

近代絵画を積極的に日本へ紹介し、それぞれに個性にあふれた白樺派の人たちの絵も、なかなかの見物です。技巧ではない個性が感じられます。それらがこの美術館の色濃いアイデンティティになっていると思われます。

繰り返し見ても、見るたびに異なる感動が得られ、何度見ても飽きない美術館です。